

名古屋港における 『ボールペン』の輸出

海外でも大人気！

2017 年の輸出額が過去最高！



もうすぐ卒業・入学シーズン、贈り物としてボールペンを選ぶ方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

近年、ボールペンは機能的で実用的なものだけでなく、見た目にこだわったものなど、色々なタイプのものが売り出されています。

日本のボールペンは海外でも人気を集めており、名古屋港から輸出される「ボールペン」¹の 2017 年の輸出額は、過去最高となりました²。

そこで今回は、ボールペンについてご紹介します。

¹ 「ボールペン」とは、油性ボールペン、その他のボールペンが分類される、輸出統計品目番号「9608.10」をいいます。

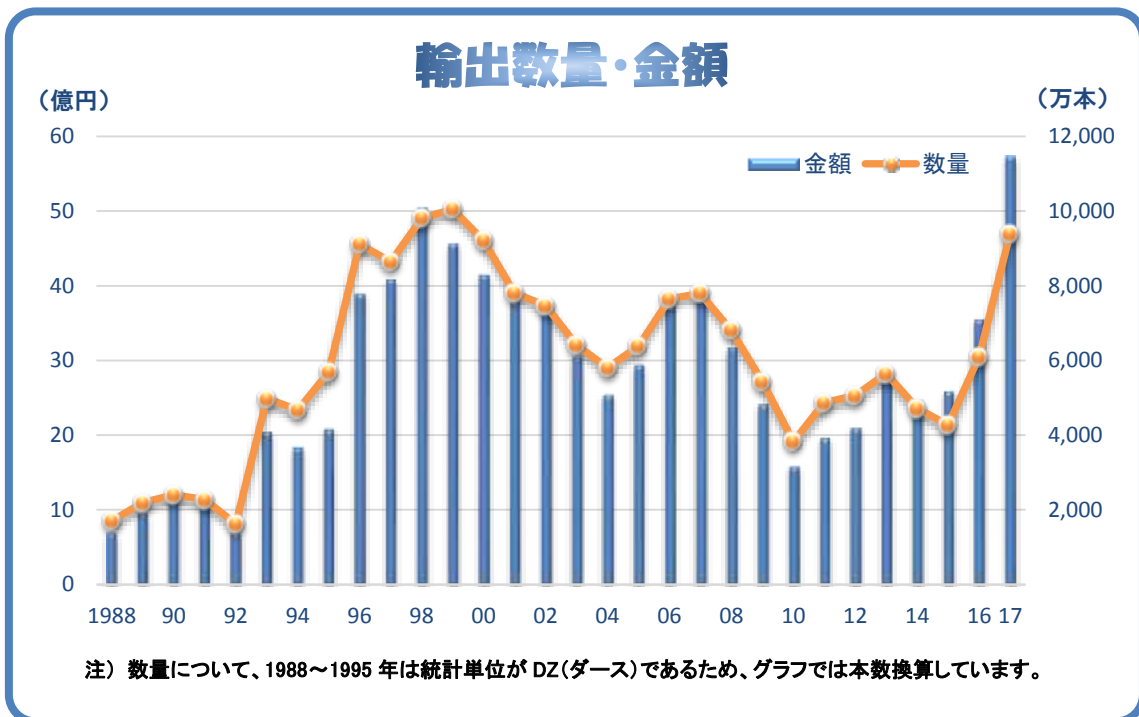
² 本資料でいう「過去最高」とは、比較対照可能な 1988 年以降の実績を使用しています。

名古屋港の輸出実績

2017年の名古屋港におけるボールペンの輸出実績は、

数量	9,399 万本	(前年比 154.1%)
金額	57 億 3,864 万円	(前年比 161.3%)

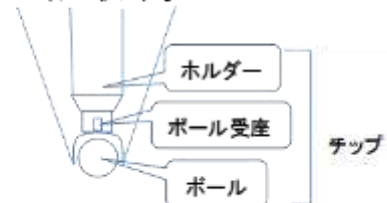
となり、数量は 2 年連続で増加し、1999 年の 10,054 万本、1998 年の 9,811 万本に次ぐ第 3 位となりました。金額は 3 年連続で増加し、1998 年の 50 億 5 千万円を抜き、**過去最高**となりました。



コラム① ボールペンの仕組み

ボールペンの「ホルダー」、「ボール受座」、及び「ボール」から成る部分のことを「チップ」と呼びます。「ホルダー」と「ボール」の隙間にインクが流れ、「ボール」が回転することで書くことができます。

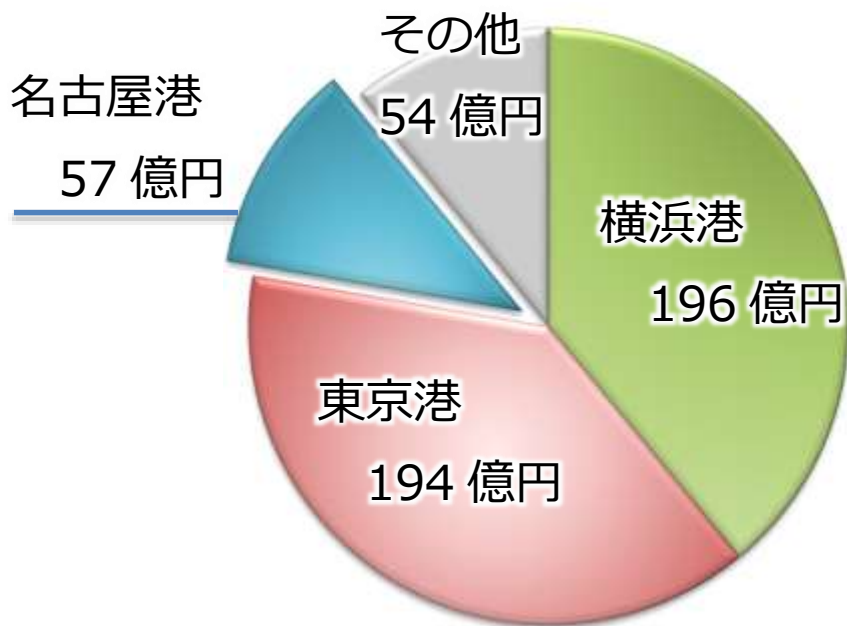
【チップ部分の拡大図】



⇄ 全国港別輸出額実績

2017年の全国の港別輸出額実績を見ると、1位は横浜港、2位は東京港、3位が名古屋港となっています。

港別輸出額実績(2017年)



※全国 501 億円

コラム② ポールペンのインクの種類

	特徴
油性	<ul style="list-style-type: none"> ・耐水性がある・にじまない・複写に適する・字の幅が豊富 ・水性に比べると書き味がやや重い
水性	<ul style="list-style-type: none"> ・なめらかに書ける・色調が鮮やか ・油性に比べてインク消費量が多く、にじみやすい
ゲルインキ	<ul style="list-style-type: none"> ・にじみにくい・色調が鮮やか

※消せるボールペンは、主にゲルインキを使用しています。

名古屋港の国別輸出実績

名古屋港からの主要輸出相手国は、1位が**アメリカ**、次いで**フランス**となっています。

アメリカ向けの輸出額は36億0,495万円、輸出総額に占める割合は62.8%と半分以上を占めています。また、フランス向けは輸出額21億1,957万円、同割合は36.9%となっています。この二カ国への輸出だけで**99%を超える実績**となっています。

輸出実績上位5カ国（2017年）

国	数量（NO）	金額（千円）
アメリカ合衆国	60,097,392	3,604,949
フランス	33,740,208	2,119,570
オランダ	20,000	3,482
中華人民共和国	12,776	3,268
マレーシア	62,272	2,334

コラム③ ボールペンが書けなくなる理由

ボールペンを使っていると、かすれたり、全く書けなくなったりすることがあると思います。ここでは書けなくなる主な理由と、防止策をご紹介します。

① 空気の飲み込み

ペン先を水平より上向きにして使うと、ペン先から空気が入って書けなくなります。
→ペン先が水平より上を向いて使わないよう注意してください。

② チップの先端損傷

過度な衝撃を加えると、ペン先が損傷してしまいます。
→筆記後にはペン先を収納するか、キャップを閉めてください。

③ 紙繊維等の詰まり

ペン先で紙表面の繊維などを削り取ってしまい、ペン先が詰まることがあります。
→筆記具に適した紙を選び、ペンを60度以上に立てて書いてください。

④ インクの変質

製造してから何年も経つと、インクは変質・劣化してしまいます。
→直射日光や高温を避けて保存してください。

🔗 アメリカ向け輸出実績

名古屋港からアメリカ向けの輸出額は、1998年に43億7,490万円と過去最高となってから、増減を繰り返しながら推移し、2010年には13億1,697万円まで減少しました。しかし、その後は増加傾向にあり、2017年には36億0,495万円と過去3番目の実績となりました。

アメリカ向け輸出数量・金額



注) 数量について、1988～1995年は統計単位がDZ(ダース)であるため、グラフでは本数換算しています。

アメリカでは、ノック式のゲルインキボールペンや、消せるボールペンの売り上げが好調と言われています。「『ゲルインキ』と言えばこのボールペン」とイメージされるような、人気の日本製品もあるようです。また、同国では替え芯を使う文化がなく、インクが無くなったら新しいボールペンを買うのが一般的な使い方とされています。

特に、消せるボールペンについては2016年頃から販売が伸びており、消せるボールペンが広く受け入れられてきていると考えられます。

✦ フランス向け輸出実績

名古屋港からフランス向けの輸出額は、1995年までは最大で500万円ほどの実績でしたが、1996年に3億7,274万円と急増し、2000年には11億3,260万円と、一度目のピークを迎えました。その後は、増減を繰り返しつつ減少傾向となりました。しかし、2016年には9億8,551万円と復活し、その勢いは衰えないまま、**2017年には21億1,957万円と、過去最高**となりました。

フランス向け輸出数量・金額



注) 数量について、1988～1995年は統計単位がDZ(ダース)であるため、グラフでは本数換算しています。

フランスをはじめとするヨーロッパ各国では、消せるボールペンの売れ行きが非常に好調のようです。主に、フランス、ドイツでは、小学生の頃から鉛筆ではなく万年筆を使う文化があり、書き損じた場合は修正液で訂正する必要があります。消せるボールペンはこれまでのように修正液を使い訂正する必要がなく、非常に便利のため日本製のボールペンの人気が高まっていると考えられます。

また、フランスに物流拠点をもつ企業もあり、フランスを窓口としてヨーロッパ各国に商品が流通しているようです。

⇒ 今後の展望

一般的に、ボールペンのインクは油性・水性・ゲルインキがありますが、特に油性ボールペンはもともと安価なものであるため、海外市場において日本製の油性ボールペンは割高になる傾向があります。コストを抑えるために現地生産にシフトする場合がありますが、高品質を保ちながら出来るだけ低価格で販売できるような工夫もしているそうです。

ボールペンの種類によって、海外のどの市場へ売り出すかも変わっていきます。例えば、水性及びゲルインキのボールペンについては油性ボールペンよりも高価なため、所得の高い層向けに販売されているそうです。

また、発売より人気が続いている消せるボールペンについては、書いた内容が消せるため詐欺などに悪用されるのではないかという懸念もあり、輸入規制を提案した国もあります。しかし、便利さゆえに需要は堅調に推移しています。今後さらに多くの企業が参入してくることが予想されます。

日本のメーカーは、海外で日本製のボールペンを定着させるために、色やデザインのバリエーションを増やしたり、販促活動を拡大したりと様々な努力を重ねています。

このように、海外市場に向けて積極的に展開していくことで、今後もボールペンの輸出は増加していくことが期待されています。



写真提供及び取材協力：株式会社パイロットコーポレーション

名古屋港における推移表(金額)

(単位:千円、%)

年	世界	アメリカ		フランス	
	金額	金額	構成比	金額	構成比
1988年	700,944	592,638	84.5%	2,021	0.3%
1989年	967,529	869,841	89.9%	5,028	0.5%
1990年	1,170,078	1,035,407	88.5%	1,295	0.1%
1991年	1,086,483	1,013,102	93.2%	3,350	0.3%
1992年	710,089	617,716	87.0%	2,409	0.3%
1993年	2,058,388	1,950,048	94.7%	285	0.0%
1994年	1,852,678	1,787,977	96.5%	210	0.0%
1995年	2,097,219	2,012,429	96.0%	201	0.0%
1996年	3,900,755	3,437,632	88.1%	372,741	9.6%
1997年	4,092,546	3,341,946	81.7%	488,900	11.9%
1998年	5,047,787	4,374,903	86.7%	333,880	6.6%
1999年	4,567,000	3,691,199	80.8%	445,883	9.8%
2000年	4,155,027	2,572,739	61.9%	1,132,602	27.3%
2001年	3,816,227	3,012,778	78.9%	502,425	13.2%
2002年	3,784,220	2,608,868	68.9%	775,725	20.5%
2003年	3,062,432	1,831,238	59.8%	929,526	30.4%
2004年	2,551,172	1,871,425	73.4%	543,030	21.3%
2005年	2,951,146	2,142,443	72.6%	755,403	25.6%
2006年	3,744,892	2,975,556	79.5%	577,432	15.4%
2007年	3,895,201	3,288,629	84.4%	533,464	13.7%
2008年	3,188,253	2,402,006	75.3%	724,951	22.7%
2009年	2,429,125	1,522,053	62.7%	872,223	35.9%
2010年	1,594,640	1,316,974	82.6%	242,280	15.2%
2011年	1,976,903	1,469,828	74.4%	484,162	24.5%
2012年	2,111,239	1,558,742	73.8%	545,111	25.8%
2013年	2,754,672	2,139,517	77.7%	611,524	22.2%
2014年	2,476,017	2,195,524	88.7%	274,223	11.1%
2015年	2,602,621	2,592,302	99.6%	—	—
2016年	3,557,525	2,561,517	72.0%	985,511	27.7%
2017年	5,738,636	3,604,949	62.8%	2,119,570	36.9%

名古屋港における推移表(数量)

(単位:本、%)

年	世界	アメリカ		フランス	
	数量	数量	構成比	数量	構成比
1988年	17,077,860	14,839,728	86.9%	48,492	0.3%
1989年	21,950,544	19,671,120	89.6%	32,040	0.1%
1990年	24,013,716	20,601,804	85.8%	15,444	0.1%
1991年	22,734,552	21,041,328	92.6%	91,068	0.4%
1992年	16,191,948	13,833,540	85.4%	55,416	0.3%
1993年	49,796,292	47,706,000	95.8%	4,992	0.0%
1994年	46,725,888	45,182,424	96.7%	3,492	0.0%
1995年	56,900,928	54,668,784	96.1%	7,776	0.0%
1996年	91,184,289	81,812,976	89.7%	7,289,648	8.0%
1997年	86,477,966	71,595,152	82.8%	9,352,056	10.8%
1998年	98,109,132	84,740,704	86.4%	6,440,412	6.6%
1999年	100,538,765	83,064,328	82.6%	8,468,304	8.4%
2000年	92,125,784	60,647,896	65.8%	21,495,040	23.3%
2001年	78,009,434	61,538,904	78.9%	9,878,898	12.7%
2002年	74,674,380	50,600,744	67.8%	15,330,388	20.5%
2003年	64,114,317	38,220,048	59.6%	18,482,456	28.8%
2004年	58,063,168	42,963,480	74.0%	11,910,864	20.5%
2005年	63,839,555	47,491,560	74.4%	15,013,000	23.5%
2006年	76,520,200	61,325,218	80.1%	11,173,756	14.6%
2007年	77,995,688	65,610,254	84.1%	10,719,364	13.7%
2008年	68,019,630	53,867,784	79.2%	12,721,416	18.7%
2009年	54,367,312	38,385,856	70.6%	15,143,292	27.9%
2010年	38,281,110	33,026,880	86.3%	4,417,376	11.5%
2011年	48,714,166	39,105,216	80.3%	9,027,824	18.5%
2012年	50,589,832	40,824,264	80.7%	9,662,516	19.1%
2013年	56,484,138	45,700,560	80.9%	10,734,192	19.0%
2014年	47,146,947	42,601,974	90.4%	4,439,688	9.4%
2015年	42,713,358	42,603,332	99.7%	—	—
2016年	60,971,417	45,087,376	73.9%	15,733,908	25.8%
2017年	93,986,041	60,097,392	63.9%	33,740,208	35.9%

注)数量について、1988年～1995年は統計単位がDZ(ダース)であるため、推移表では本数換算しています。

港別推移表(金額)

(単位:千円、%)

年	全国	名古屋港		横浜港		東京港		その他	
	金額	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
1988年	17,377,453	700,944	4.0%	4,570,146	26.3%	10,497,311	60.4%	1,609,052	9.3%
1989年	19,853,664	967,529	4.9%	5,637,618	28.4%	11,249,751	56.7%	1,998,766	10.1%
1990年	24,566,227	1,170,078	4.8%	7,270,384	29.6%	12,359,818	50.3%	3,765,947	15.3%
1991年	24,607,587	1,086,483	4.4%	7,180,598	29.2%	13,450,930	54.7%	2,889,576	11.7%
1992年	26,203,202	710,089	2.7%	9,175,167	35.0%	12,990,166	49.6%	3,327,780	12.7%
1993年	25,900,702	2,058,388	7.9%	9,992,891	38.6%	11,427,572	44.1%	2,421,851	9.4%
1994年	25,914,217	1,852,678	7.1%	10,201,101	39.4%	11,511,387	44.4%	2,349,051	9.1%
1995年	28,686,078	2,097,219	7.3%	11,522,143	40.2%	12,059,802	42.0%	3,006,914	10.5%
1996年	35,730,603	3,900,755	10.9%	11,797,577	33.0%	16,127,108	45.1%	3,905,163	10.9%
1997年	45,232,279	4,092,546	9.0%	13,346,779	29.5%	20,107,649	44.5%	7,685,305	17.0%
1998年	50,941,840	5,047,787	9.9%	17,581,363	34.5%	21,908,308	43.0%	6,404,382	12.6%
1999年	55,470,256	4,567,000	8.2%	17,592,824	31.7%	19,740,934	35.6%	13,569,498	24.5%
2000年	57,352,103	4,155,027	7.2%	17,406,889	30.4%	24,398,195	42.5%	11,391,992	19.9%
2001年	45,265,605	3,816,227	8.4%	14,625,027	32.3%	21,120,961	46.7%	5,703,390	12.6%
2002年	44,212,380	3,784,220	8.6%	14,379,621	32.5%	20,452,205	46.3%	5,596,334	12.7%
2003年	40,033,531	3,062,432	7.6%	13,959,040	34.9%	18,511,498	46.2%	4,500,561	11.2%
2004年	37,352,473	2,551,172	6.8%	13,572,444	36.3%	18,933,462	50.7%	2,295,395	6.1%
2005年	35,733,600	2,951,146	8.3%	13,284,662	37.2%	17,361,514	48.6%	2,136,278	6.0%
2006年	40,033,457	3,744,892	9.4%	14,541,754	36.3%	19,323,135	48.3%	2,423,676	6.1%
2007年	43,316,591	3,895,201	9.0%	16,122,391	37.2%	20,127,714	46.5%	3,171,285	7.3%
2008年	40,774,579	3,188,253	7.8%	16,962,098	41.6%	18,670,431	45.8%	1,953,797	4.8%
2009年	30,116,104	2,429,125	8.1%	12,803,395	42.5%	13,719,075	45.6%	1,164,509	3.9%
2010年	32,025,662	1,594,640	5.0%	12,734,368	39.8%	15,185,886	47.4%	2,510,768	7.8%
2011年	32,970,813	1,976,903	6.0%	13,670,469	41.5%	14,183,826	43.0%	3,139,615	9.5%
2012年	35,111,195	2,111,239	6.0%	13,809,757	39.3%	15,526,343	44.2%	3,663,856	10.4%
2013年	38,264,668	2,754,672	7.2%	15,795,423	41.3%	17,326,546	45.3%	2,388,027	6.2%
2014年	42,263,433	2,476,017	5.9%	17,838,950	42.2%	18,593,895	44.0%	3,354,571	7.9%
2015年	48,289,422	2,602,621	5.4%	22,299,944	46.2%	19,567,829	40.5%	3,819,028	7.9%
2016年	47,331,925	3,557,525	7.5%	19,831,136	41.9%	18,447,742	39.0%	5,495,522	11.6%
2017年	50,133,279	5,738,636	11.4%	19,552,567	39.0%	19,408,716	38.7%	5,433,360	10.8%

港別推移表(数量)

(単位:本、%)

年	全国	名古屋港		横浜港		東京港		その他	
	数量	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比
1988年	530,590,968	17,077,860	3.2%	139,833,984	26.4%	350,884,572	66.1%	22,794,552	4.3%
1989年	592,598,004	21,950,544	3.7%	166,127,400	28.0%	374,816,028	63.2%	29,704,032	5.0%
1990年	703,457,256	24,013,716	3.4%	209,624,772	29.8%	382,979,628	54.4%	86,839,140	12.3%
1991年	715,957,116	22,734,552	3.2%	187,887,492	26.2%	447,283,308	62.5%	58,051,764	8.1%
1992年	709,851,444	16,191,948	2.3%	241,426,380	34.0%	375,635,172	52.9%	76,597,944	10.8%
1993年	784,660,764	49,796,292	6.3%	273,258,672	34.8%	401,911,260	51.2%	59,694,540	7.6%
1994年	805,133,544	46,725,888	5.8%	265,261,848	32.9%	436,715,436	54.2%	56,430,372	7.0%
1995年	864,331,968	56,900,928	6.6%	305,399,484	35.3%	433,860,144	50.2%	68,171,412	7.9%
1996年	965,658,960	91,184,289	9.4%	293,731,190	30.4%	488,126,006	50.5%	92,617,475	9.6%
1997年	1,140,912,512	86,477,966	7.6%	318,621,523	27.9%	559,312,189	49.0%	176,500,834	15.5%
1998年	1,196,208,440	98,109,132	8.2%	413,287,255	34.5%	552,614,195	46.2%	132,197,858	11.1%
1999年	1,378,509,120	100,538,765	7.3%	422,049,910	30.6%	515,634,305	37.4%	340,286,140	24.7%
2000年	1,450,500,759	92,125,784	6.4%	402,611,985	27.8%	640,761,802	44.2%	315,001,188	21.7%
2001年	1,077,864,711	78,009,434	7.2%	339,755,706	31.5%	525,324,205	48.7%	134,775,366	12.5%
2002年	1,042,901,110	74,674,380	7.2%	330,450,799	31.7%	505,044,185	48.4%	132,731,746	12.7%
2003年	969,772,168	64,114,317	6.6%	342,171,329	35.3%	460,149,883	47.4%	103,336,639	10.7%
2004年	921,867,677	58,063,168	6.3%	331,267,999	35.9%	479,342,089	52.0%	53,194,421	5.8%
2005年	865,460,672	63,839,555	7.4%	324,858,625	37.5%	427,534,032	49.4%	49,228,460	5.7%
2006年	918,656,602	76,520,200	8.3%	334,187,945	36.4%	460,107,632	50.1%	47,840,825	5.2%
2007年	972,807,024	77,995,688	8.0%	367,319,762	37.8%	466,651,626	48.0%	60,839,948	6.3%
2008年	944,409,373	68,019,630	7.2%	396,906,440	42.0%	437,544,034	46.3%	41,939,269	4.4%
2009年	733,056,954	54,367,312	7.4%	312,576,424	42.6%	337,729,225	46.1%	28,383,993	3.9%
2010年	811,792,177	38,281,110	4.7%	315,562,174	38.9%	400,263,343	49.3%	57,685,550	7.1%
2011年	850,693,033	48,714,166	5.7%	351,380,148	41.3%	378,871,838	44.5%	71,726,881	8.4%
2012年	871,193,419	50,589,832	5.8%	349,048,985	40.1%	397,911,648	45.7%	73,642,954	8.5%
2013年	840,136,054	56,484,138	6.7%	352,389,418	41.9%	384,314,915	45.7%	46,947,583	5.6%
2014年	881,173,142	47,146,947	5.4%	379,549,401	43.1%	391,644,882	44.4%	62,831,912	7.1%
2015年	925,231,957	42,713,358	4.6%	440,994,543	47.7%	373,762,463	40.4%	67,761,593	7.3%
2016年	982,940,095	60,971,417	6.2%	423,707,029	43.1%	390,052,954	39.7%	108,208,695	11.0%
2017年	1,021,783,277	93,986,041	9.2%	414,404,345	40.6%	405,875,704	39.7%	107,517,187	10.5%

注)数量について、1988年～1995年は統計単位がDZ(ダース)であるため、推移表では本数換算しています。

税関ロゴマーク

税関ロゴマークのデザインは、航空機、船、ゲート（門）を組み合わせて構成されています。

ロゴマークにある、ゲート（門）の中の秤は公平を、鍵は保全を意味し、税関の役割を図で表現するとともに、3つの桜が税関の使命（安全・安心な社会の確保、関税等の適正・公平な課税、貿易の円滑化）を示しています。



税関イメージキャラクター『カスタム君』

『カスタム君』は、麻薬探知犬をモデルとした税関イメージキャラクターです。

名前は、英語で税関をCUSTOMS（カスタムス）ということから名付けられました。

密輸防止の街頭キャンペーンや税関展、広報ビデオやパンフレットなど、様々な場において、税関の広報活動に貢献しています。



本資料を引用する場合、名古屋税関の資料による旨を注記して下さい。
本資料に関するお問い合わせは、名古屋税関 調査部 調査統計課（Tel.052-654-4176）までお願いします。
また、貿易統計は名古屋税関 HP でもご覧いただけます。

《 <http://www.customs.go.jp/nagoya/> 》